

# 平成29年度 横浜市世界を目指す若者応援事業

## (個人留学による帰国報告)

### ●氏名

ROさん

### ●留学先

国/都市：米国/テネシー州メンフィス

外国の高校：Arlington High School

### ●留学期間

平成29年7月21日～平成30年6月7日

### ●留学先での活動、留学で学んだこと

現地の治安の悪さや学校教育のレベルの低さのせいで、ストレスがすごくたまって、何度も帰国を考えましたが、なんとかやりとげることができました。

辛いことが本当に多かった留学でしたが、学んだことはそれより多かったです。

この留学を糧にこれからも日々前進していきたいです。

### ●アメリカ留学を終えて

《まずはじめに》

- ・私は7月下旬からオハイオ州にて3週間現地事前研修を行った後、8月中旬からメンフィス（テネシー州）にて約10ヶ月間ホストファミリーと一緒に過ごしました。
- ・今回の留学は公費留学で、斡旋機関を利用しました。そのため国は自分で選べましたが、州やホストファミリー、学校などは選ぶことが出来ませんでした。

《研修先で学んだこと》

- ・日本が大好き!

メンフィスはブルースを中心とした音楽発祥の地として有名ですが、また、アメリカ国内で最も治安の悪い地域の1つとしても有名です。そのため、私が通っていた現地校では常に警察官の方が校内で見回りをしていました。それでも、重度のアルコール依存症の生徒や、たばこ、ドラッグなどに手を出している生徒が非常に多く、実際に私も友達がトイレでドラッグの交換をしたり使用しているところも見ました。ホストマザーの話によると、メンフィスでは、未成年者の飲酒、喫煙、ドラッグの使用などが非常に多く、これは地域だけではなくアメリカ国内の重大な問題の1つだと言っていました。

また、学校では生徒全員が体育や美術などの実技科目以外の授業で iPad を使用して、教科書はすべてその中に入っていました。ノートも iPad でとることが多く、宿題はすべて iPad でやってからそれを先生用の PC や iPad に送信して提出するというスタイルでした。ここで 1 つ問題だったのが、授業中、先生方の仕事が生徒に授業中の課題や宿題を送信するだけで、あとは何もしないということです。生徒はただ送信された課題の説明を読み、回答をタイプし、それを先生に送り返すだけなので、ディスカッションや挙手する機会さえも一度もありませんでした。授業中は音を立てることさえ躊躇するくらい静かで、みんな黙ってひたすら iPad を見ていました。しかし、出された課題のほとんどは、答えがもうインターネット上にすでにあるものが多く、生徒はただ答えを検索してそれをコピペしてしていました。みんな課題はコピーして終わらせるので早く終わって、残りの時間は iPad で映画を見るかゲームをしていました。現地校に行くまでは、私は授業中のディスカッションやプレゼンテーションなどで英語力、特にスピーキング力を鍛えようと意気込んでいましたが、それは結局最後まで出来ませんでした。さらにそれだけではなく、私のアメリカ史の先生は、生徒に課題を送信した後、残りの授業時間はずっとフットボールの試合や映画を自分の PC で見ていて、私はアメリカ史の予備知識がほとんどなかったのが課題についての質問をしたり、宿題を手伝ってもらおうとお願いしても「だったらやらなくて良い」と言ってきました。このようなやる気のない先生や生徒に囲まれて過ごす学校生活は本当に無意味に感じられ、何のために留学したのかわからなくなりました。それでも自分でなんとか英語を話す機会を作ろうと、月に 1 回、今年の夏に日本へ研修旅行として来る生徒に向けてプレゼンテーションをする機会を貰ったり、ホストファミリーの 1 人が社会学の先生だったので補習授業をしてもらったりしました。この環境のせいで、他の留学生より英語を話していないのではないかと毎日本当に焦っていました。

また、治安が悪いせいでホストマザーが私を学校に長居させたくなかったのも学校で行う部活動は出来ませんでした。治安の悪さは学校生活だけではなく、日常生活にも大きな影響を与えていました。例えば、私のホストファミリーはゲートコミュニティ住宅(専用の鍵がないとその住宅街に入れなくなっている住宅街)に住んでいたのですが、その敷地内だけが私が 1 人で歩いて良い行動範囲でした。また、近隣にはお店が何もなく、歩道もなかったのもどこへ行くにも車が必須でした。私は運転できなかったのも、どこへ行くにも誰かに連れて行ってもらうしかありませんでした。この治安の悪さによるストレスと学校生活のストレスは、留学中ずっと感じていて、そのストレスが原因で体調を何度も崩しました。日本は絶対に安全というわけではないですが、ある程度どこへでも好きなところへ 1 人で行ける日本の治安の良さを身をもって感じました。

《これからどう活かす?》

- 日本の良さをもっと世界に広めたい!

私はこの留学生活を通して、日本の良さと自分がどれほど日本が大好きだったのかを

痛感しました。将来は日本の素晴らしさを世界にアピールする仕事に就きたいと思っています。具体的には、日本のアニメ業界に入って、実際にアニメ制作をしたり、英語吹き替え版を作るための台本の翻訳や、英語字幕の改善などをしてみたいです。私は日本のアニメが大好きで、小さい頃からずっとアニメを見て育ってきました。日本のアニメは留学したテネシー州でも非常に人気があり、アニメを通じて友達がたくさん出来ました。私のホストシスターもアニメが大好きで、アニメを見て日本に興味を持ち、今回私のホストシスターになってくれたそうです。いま、日本のアニメは、日本と世界をつなげる架け橋と言っても過言ではありません。これからも進化を続ける日本のアニメと、留学で得た英語力や異文化交流で学んだ知識を最大限に使って、日本を世界にアピールしていきたいです。

#### 《お礼の言葉》

最後に、この留学に関わってくださったすべての方へ感謝を伝えたいと思います。まず、滅多にない留学というチャンスを与えてくれて、留学が終わるまでずっとサポートしてくれた家族には、感謝しても仕切れません。約1年間家族と離れて過ごしたことで、さらに家族の存在の大きさと家族と一緒に暮らせることの幸せを痛感しました。また、3週間の間、私と一緒に生活をしてくれたオハイオ州のホストマザー、そして10ヶ月間もの間私を本当の家族のように愛してくれたテネシー州のホストファミリーにもとても感謝しています。距離は離れてしまっても、彼らはずっと私の大切な家族です。これからもずっと連絡を取り続けて、また会いに行きたいです。多くの人々の支えがあったからこそやり遂げられた留学だったということを忘れずに、これからも夢に向かって前進していきたいです。